江之嶋土産 二編 上

へ遠13
1583
2

明治文庫
1583
巻 2

渭稚誓江之嶋土産序

福田家蔵書

居志子云漁の字は金と魚と書

なるの系重八甲兵武器を司る新倉乃

字は人一君と書也然る漁翁は武備

を將の居なるかの志なり云云此故に漁

翁の玄孫深屋忠郎左衛門時忠世しる系譜系代武將相傳の在地

ゆしうす。靈異の勝景の旧趾。今詣人衆
眼をと慎し松風の種月の感情をおこし
もるさて維摩大廈高樓乃あり久経て。
相像求舟影の餘里所。平再と興化
年間遊しうす既出て去るこゝ以て。その
所乃来世縁傳なるかぞのり北武
迹千縁まて永益ましし省墨て

唯来往の客が。市食の戯言欣
うす能紹とし。ちうす摸嶋年七夫蓮花
出て。捷す。初編一巻を終し
祥千行はしゆて。今亦書肆雙鶴
堂の主ゆ乞世世嗣編二巻年此
化のまて紹ゆしは。忠行る人勝地のる
重篤基ちるをして。謝語得稽のたゆる。

くゝ海苔さゝ紙。紙子中ものれと。
果ものゝ生ものゝ。遠て。手前練手ゝ
迎ゝ上を。濃る。ものゝ。戯作者の獨形。
法ものゝ和ものゝ。版元ゝ。蔦屋千附
ける黄金の札。子も。ものゝ。墨月夜。編
金沖の。ものゝ。松魚。あらしものを。法ゝ。墨
生。傷物。し。葉札の。組。ものゝ。の。

出ものゝ。のゝ。章子。酬。利。ものゝ。
ものゝ法ものゝ。書。

花ものゝ

于時文化庚午孟陽吉辰

東都

十返舍一九識

直

月麿画
積古今集
宮
ふとしき
ふるさと
ちよろず
代か
今を
さくん
かな
くらの
里
鎌倉
右大臣

滑稽
江の之道
上産
凡例

○此書ハ鄙ふもらくるがごとく。道中漆栗毛の書ふ倣らるなれど。只その滑利笑ひ勿己を専として。他の記行らんふまるごとくぐ。因而排設のおりむき漆栗毛ふ類して。趣向仕ふ異なるぐざる不もあれども。予が我性年〻宋〻て堺階ぐ〻。予が性年〻宋〻て堺階して。密〻ふ古ををぐ〻ふく特撰せるものもまる多し。是予が愚時のいとまざる所と。法君

○名所古跡の記系縁傳等へ。湯倉志および。湯倉名勝志ふ二ことしるし。又東鑑。鎌倉物語ふ。その物とる不深切なれば。省き載ず。見別紙考理の事の不審あるを。あやまりんことをおそれるなり

○此編ハ江之島より腰越七里の浜を歩く。物語の舊宿のおりむきなれば。それより比企谷。松葉谷ふ巡歴の滑稽を志るすなり。その後ふ追〻三編ノ出るべきものなり

東西〳〵此ところ御そちよと御ひろうや上まする

鹿嶋太々講之記

十返舎一九戯作

全三冊　近刻

木嵐の夜船をかり切て。刀根川の月にうかれ。香取の市をひやかし。津宮の夜にまよわれて藤とござると。潮来出嶋の色所宮のおかんぞ。元気をさわぐ腰提紋羽にあるぞかし。そこらを流して生洲のかわうそのぶれは山浦の。鰻にひとしきおもふくら旅ゆかんと鹿嶋へ参りき。趣向は作者の胸の内にあるぞく〳〵

江之嶋土産二編上

東都　十返舎一九著

或人蹲中の雨とふくれ頭ぬ。同行の人数をあつめ笈笠も只ぬれるもしとかぶる雨の日と旅するハ宜なり。雖ふ羅なれ空の景色あれ。わりされさらておのぼりくら足も軽げなれど。雨ふる日そ氣もあわりて古郷のことなどおもひ出され。伊勢まゐりの柄杓あるをつんぐるを。内の茶櫃の底をあんじ。草鞋ものの豆が出来りく

かくるの掛庫をおりひかり。桐油合羽の匂ひうだつて。
借衣の新おろされが。目のさたふちつた。無筆れ
も方言も出べこそ。廉出當たりおそる。三度笠
の色かくれんこと衣のこ案ずるも。実旅いらかもの
はくふいこのと。今身のとるおこつりたる。北吉町。稼助の
二人連。蓑沢より江の浦を入る比。雨ふり出ておもを
なたれば。雨具かくれ身のかなしさ。糸桶ゆうれもの
脊中ゆ引ぞう。ひとりわれわれ。きもあさだはも
きうねん。堅えくく。北こ七里ゲ濱の浪の音ちく
なりくれふ。遠はくれくる夜側の茶屋ゆ。麦藁ふ
はきさしる。鯖洲老ハ作るひうひて見ゆれ。蛸
鰇小鯛のたぐひ。ちんぐらゆ生わるゲおくいさまげ
ふ吸くれ女のかんだこ声ゆて「おすこれへおこ
いるアお荷物あづけもおいでアゆ酒もおくもぐこ
きをおやをとるアくく[illegible]てあつる前ゲ[illegible]
かくく大くくいこトゆこてくくゆ[illegible]ゆ雨もゆこくれば。
きくるいこだても竹こてくいこだゆくゆ。

かち
越し
の
川上
うまを
みか
一雙

ゆうぐくれてきうり。ぼかのけーれてこうきされ。もまで。あゆのらきてこも。ぼとん
そそくゆくもうふふ。測のうくひくまぎぼ。川とるりて。川ぢ。ぞもさんけいの人を
肩ゆのせてとゆる而あり。ぼ近左の百姓ら。き
犯ぎ仁。川ごーぞもとあふそふをきけ。かの

あやぢ コリヤアのーた

ちやア。えんざ。ぼ川ひとつを。北ぼ文とるべいさアもげらるい。
ぶ文ぢるしゆまげさんちあい。それうどうど生ととさアヤアぞく

川ぢ ハテとうどぞやアごぢくねぴぶらーや
ゆな 稲とけ モシぼ川アいくでとんといひゆと あやぢ アイサ
北ぼ文あべいとらゆうらぷ。し 今稲ぎりあ而でどぞふア
犯 ゆるゆどとうハたくく。コウハ文ゆまけうし 川ぢ

とうぷゆうじもるいとうんぞアハ文ゆうぷしらうこーく
ゆふひまとん 稲 コリヤおりーうくハ文でゆーてゆうゆかぷ。
サアきうし 川ぢ イヤおまいがとゆる川ぷとうとと
とうアゆふね 稲 銭とうとゆるゆふ稲くゆがゆぜ今ハ文
ゆぶいーらがぢしてゆふあゆとらうくぷんざゆきくぷざやア
稲くぷなんでもゆーてうふあゆとらうくふやア。ハ文で
おいふがぢしてやうゆやアがんーんーねく。サア 犯ぎ 仁さん。おめく
もゆーてゆんゆせん。ゆやぢ そゆぞアとも。サアとんくートおやぢも

[illegible]ものみぶ[illegible]きこかくつてらふこぞ。
かんごじゃもさやたあのそ

[三きく] 川どじが川を志てすらうこ[illegible]

めづらしいこんぢゃ。サアあ[illegible]てすらうべい。そんだらあやア。

おとととときろないぞト [板たふ] 祖父さけがまくやさちをごうりて。ちりを
つぢとこのふせんと。そう外おちろふをいれてふこそぢう。祖父さけびつりしながら。
まけをしこあそ外ごーらくを。川どじのまるぢ[illegible]ぷらびをけつちこぷんとらのて
ヤきめどぷろとうふめづぢ。板たふも [川どじ丑] サアどふまる。八文の旦那
そのちりぷつくとふた半ーあづ[illegible]

さあぢゃ。そあくふさあいう。どふぢくト せきーろるふの親父
ぢろとちりひんまろて。たちをざりて。力る川どじのまるぢふたぢ。田舎りの。
くびをいれぢんつくもなくかぢろまちやのせざりくと川をとて [川どじ丑] サアく
きうあたらやアどふとれ。やうあいうどふぢ [板たふ] 川めく

まーふゆふをの女おかうんぢーふれさせいうして。けあをさろ
ぷろちかーぢがおちると [川どじ] まつきめとの道ふ。おつきなか
とぢぢがおちてあつうあけが。大うときうあのだんぢいぷ[illegible]
ト [竹内川むとふ] つちりうるかの [おちぢ] ヲイおあぢーあぷーヤコレハ文ろ
さアぢやくぢぢれく [板] コリヤすふどじはふ祖人。ぜ足文で
つぢくおちうぷサアきうさあ[illegible]ちあて下せく [川どじ] コレえ
さあーあい。おまいぢさアけぢんぢ。川さ力るちよ汐ぢ夏
さアぢ。りふ世足文ぢゃいうあい。三十二文でちーはせう。

【孫】ちうこうがぬくぬんどふだ。プレ 此二文ヅヽ二ツよト 渋をはせ
ちうそくふうりをかごうまあで。 べりだし。
むうふのかくちゅくちゅくちうと 【姥】コリヤ口ちうく。おりちくも
なんとも孫へトいくぎうこくふひまらりしこうるいふこちをらそだゆく
ふかのさんたくうりしあやぢもまちうけていうるがいうちよ
あ打たれて。湯の入なよいうりあ。ぐちあ百ことうの孫りものゝ出るとく。ふ指
えんどの色しあかんの茶屋ゆんぞちやうこうりうりうふあり。ちどうあり。あるいぢうだいこと
のおとかまびとく。耳を 【あやぢ】コリヤアうんどうぐいがいゆあぎちうみ
ぢきぬくぢうりなんで
ちんどア 【姥】ハアア道ぐちうこしのあうこ。百味漆のちやこどう
【あやぢ】百味漆ちうアちうんどうなり 【姥】ナニサ 兵天さんの漆中
かうふ百いうの供物をあげうこと 【あやぢ】ハアア兵天さんアうふう

わけどいうどうのを糞一荷うとかいうてまくあげういう 【孫】
おやくもちんどうことをいう。糞がどうふうてあげうれうものご 【あやぢ】
ハテサ。あれも百味のたれうのどうり 【姥】ちうて孫へうりいちや
まどうどくくくト。それうりえんどうをおうこうげあげがむうふうりまう田舎商人
らうえ男。はあぢ兵えうけかまてちうづきとうえんどうくれいうて
ゆうさうどうぎうりをこちうぶのあやぢうぶちまちち
がんちうくんとうんで。その男をゆうりふいうちうく 【あやぢ】コリヤ孫五七ゆ。ちいとうで
あうこうこのひやうたくれゆまうちうないどうく 【孫五七】コレくそうれ
山のあんぢいどう。てちうをコリヤ。ちうをべいとうて 【あやぢ】かうちゆ
ちどいうんう。ひとどうていうくちうこうあう。うせあれ 【ふ孫七】イヤ

ひとごろふれるおぢくるいぞ。コノあんぢいめが【おやぢ】ナニおのれ。
ふがとりの。きろないぞくトいせうゆおろてゐれこれとちふごろこ
いふろぞ。こうらい人ごろしくさふぎ
るに。をづまのことるれだ。【孫】マアくちづうゆーるせへ。ゆのこんこう
ぢ。ちかふ孫へ。おやぢさんもるんぢ。むーゆうやたふ。きろ孫へ
くとぢろいろて。おめくマアこけをいひるせへ。ゆのちふさ
【おやぢ】るんのこんぢやアどぢふるい此男めが。ーがことの
ぢんだあふ。毛ゆやさしさかふのこんでざざれ。【孫】ナニ
ぢんだあこん。おめくのかこるゆのことう。そのかこさまに

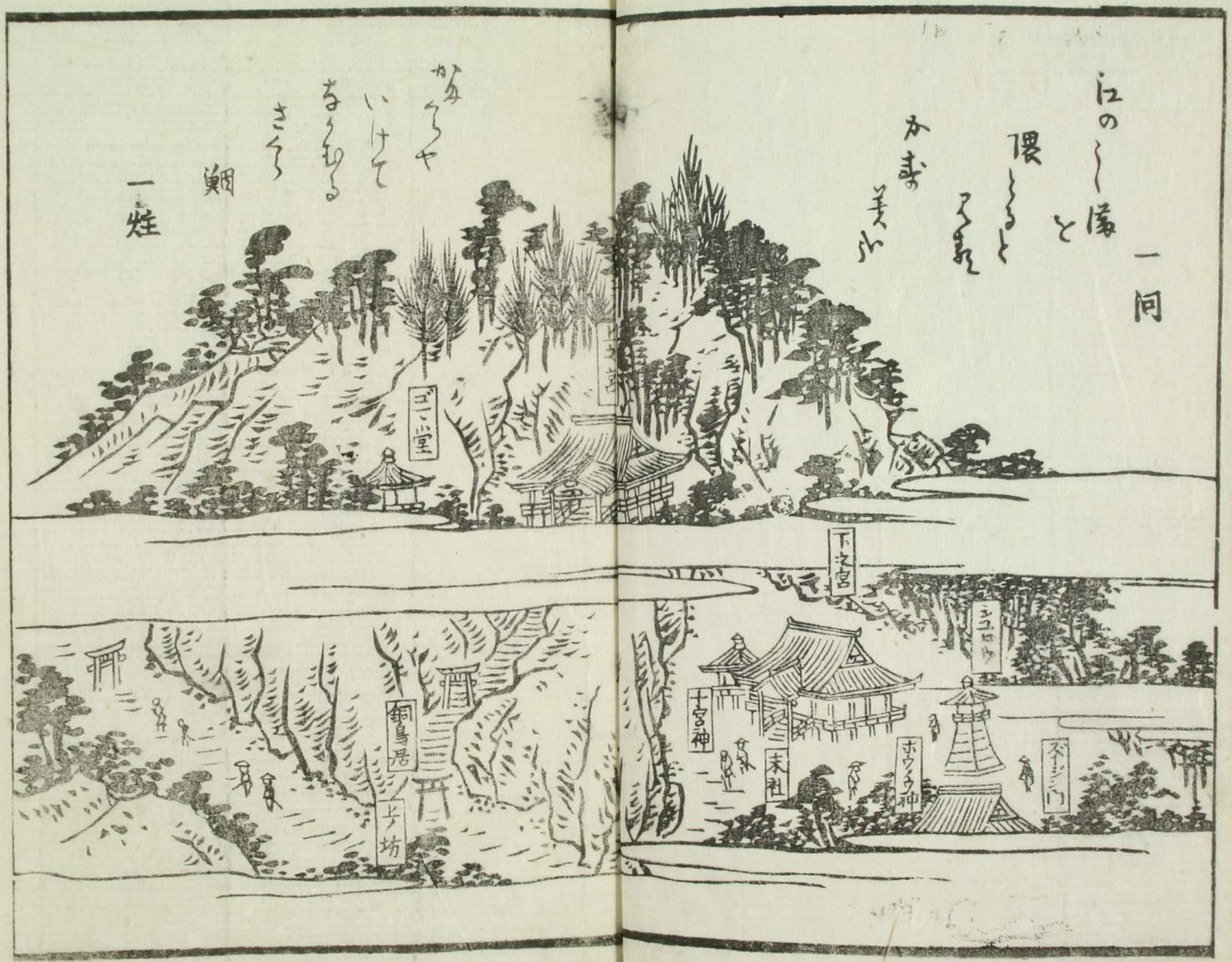
あのくが毛をゆやさしさこん。ハ〜〜〜コリヤアハ大こふぢ【孫】
イヤこんなりしもないことをいふ。あんぢいぢ。ことるこゆのうこさゆ
ぢ。坊主ぢやアあるまい。ナニこしが毛をゆやさんをかんぢ【おやぢ】
イヤこゆやさしこく【孫】モシぢゆもこうふ孫への。毛をこゆ
さしここふ。ぢけくこうこのぢく【おやぢ】ぢこくこんで。あるぢいこと。
こしがぢんだあの。ゆじのさきく毛がこんこ【孫】ナニゆじのこん
へ〜〜〜ようくこうふ孫へ。ソリヤアぢゆしてこんく中こた【おやぢ】笑
てくれこんこゆ。こしが。ぢんだあハ。あこまがけんこうだんて。

毛たくぐすりをはけたらよかんざいと。仏男がその名を
をくれたげな。ゆるゆへ毛のたくぐんとぐアかくどのまらぐが。
ゆびのさんへはんつくくと毛がたくて。生れもはうるらかさ
いりのふるうとア。あの弘法七めがそらぐ。せうとみもうすを
とんて。くすり包の紙を。うにりんてねまをと　うらちうう丸
牧をうるうてひくきうる。　いどしうをうる。
そのうがきゆいうく。

家傳毛たくぐ藥　文福斉製

はけるくすりハ一ぢびはけるされゆるたくぐ毛の
をゆることきあうすり仕一とうろ仕ぐるうの
さたうてはつけるさんべくふすりゆびあてはつけ
るされりくぐゆびのさんへ毛たくぐんの

[枕] ハ〳〵これでうろうとぐたくんすぐふおりくのかとさうゆるぐ。ゆびの
さんへ。此くすりをつけそめるゆへはけさうんざうらぐそこてゆびへ
も毛ぐたくとのぐなこりつハするわどをんちきるりんざうう。
[おもて] 十二とのくぐ[おもて] 十二とのくぐ人ハおりくうんとんうぐん


一同
江の〳〵島と
隈〳〵と
かゝる美し
かなくゝや
いけてまるる
さく〳〵
朝
一炷
ゴヒ堂
下之宮
ミユロウ
十宮神
末社
ホウラウ神
スイジン門
銅鳥居
ヶ坊

でも泳ぎを七をひこざろていつて。わーぶぞんだあよ色とそや
さしまーたと。庄やどのくことろつて。お地ひさまへねが用て
ぐれぞん 泳手 イヤ況ないとと紙いつぷとすると赤ふあれひと
ぞーぐれべいう 書ぢ イヤひとぞるくート むせうふひろぷる。ゆくまとと
ようとと。ちさうふさのさいちう。百みとうの祝りのおーとまろる赤色。
ろうらいの大ぜいあーと合くーとんさろるよ。泳ふせさいうひとはどとふさ
ふしろぷぞーとゆげいぞせぷ。あぞらのつぷいそおろうけ
ろりぷぞのくされいちれぞ。祝りのいとろどんとぞさ
たいと ぞんくーぞぞん ろと ちうちあつうめんちやアぷろぷん
ぷん 大らいと ぞんぞうーはあとうたるどこ
のるとこまへ大ぜい まあり エイサ。ヒン

ヤアまェとへ。ろんやアろんとう 泳ぎし ろつぴきちゆんくート はち
ふろりいとちあぞぷうんあり。ゆぞてトのぷこや仁まぷ門
ろうぷ。ろぞんをのぞり。感ぜんれ門ようぷみやふまろる 社俗 諸人色致
のあまろりい足でぞさい 泳 モシ女よ惚られる浮はりりい
ぞぞりやせんう 社俗 イヤとれぞとるつち。女人色致のぷ守
泳 バイさあうるぷ。いろぞぷたのつろせるしゆとしやせう
俗 ぷ神酒はてうだいろうるされ。寡加泳へおとろ打次者
泳 一ぷいのんでもいぞぷなんぞさうるみぞありやとろ 俗 さうる
い下の茶色とぞろ。トゆぞりきりて引迎ぞ。ふろりいとろをありて
上のぷとやるまろり。赤社ことぞーく

ぎゅんぞーくぞーらう
ぞくぞくんをくぐれが

ゆきんど サアアく〜評判ぐは買なさい格見
のはんぢう出えせでござんす。各代くく〜

ふりのふりふく サアはらふ
ぎろ。それがとれハーねぶんのらくふて虎狩のてい。むうふふ
大坂天満天神。どうさのゆ岩より大星ゆくの助。ふぢぞら
の弁慶。なのりうけて切て出る。敵の大将馬松たちまち。
篠塚六郎磐會ぶんどう。赤沢山ふて豆腐のてい。是
もも目ぐるりまとれべ。つぎハ義経別巌嶋むうふふえ出る
が源草の親者。八重の姫。然坂若龍が抱えの相ふ。数
多の兵。私とぎようせく〜。富士のまたぐりのてい。おりくく
えゆう。ナントきあうう。サアく〜せんのうふおうりく

ふちちゃ
ぎのふ
あうあうさおこあげ出しませねう。貝屋風おさいくちの名物
絶滅の絶もごぞりまうと。壹貝がゆらばじてお茶あがも
ませ。おあとをあく〜

ぜ ナントとうで一ッぷくのうん爰の
むーと出ようふう。ぜはあゆさん。代貝屋風いいくぐ

ハイ
それハ。八十文でどざりまと

こいくぷ。かうらふくぐの門ど
えん

ぜ おいふアそれよりう此おむとの貝びゆうぶがのぞみ

ぶ孫 [四] ヲホ〻こうとしげのハ蜆貝でござりまうと [孫] おーれは
はあ。さうぶうのむきこがきいてあきれらアトふうふせうぶ
ケーをかうる。そのとおりの茶やあハ。おどりのとえへうる女づれ大ぜい。ゆとをみる
うるげ。下の茶屋より。西さうるちぶどとえへて。ぞうふうるとえるせうの門
もう人つ大さうぎの [孫] コウとおり紙えさん。ゆぶで孫へのの [孫] ホンニ
うんなおどんうぶ。ごれもいったぶぞうへぶヨやくアノ娘と。
伺うさてあいん。こうち成こうぞうてかる。どまめいたーう
あ〻ぶもあで。きをいのゆ女房。うてこのいけ孫へありぶ
あうぶ。でくぶうんのいうありぶ [四] アレくとうちうのまえ

[孫] ぶ。ほ家らしいぶ。蛇とふうりでむーゆうふおいうをうえて笑
ひかけるぜ [孫] コリヤホンニたまうう孫へおりうくくトむうふうふうて
あうううとおりの茶屋うう。かのむとあのとものして大ぞーあのゆ。ゆとえ
の茶やへあうをうえれば。まへうと孫をけげ。おどじなぶやにおとりのうえ。うんおぶ
えある女うをぶ [孫] さてとそおけんさんう。おめへぶりとそ。パテよくあさへも
あるりんぶと。今もりんそかゆ。たが。仏とえぶぶ性のすのぶうの氏。
時よ今へどうゆかおうう [孫] おひとしぶりでござりまうとうぶ
えふ猪おさいましう。りとしも今。勝てあるぶのおくさ母や娘ど
のぶ。仕ってさんぶ成しう。ナンとおひとしぶりぶ。酒ひとうおあげて

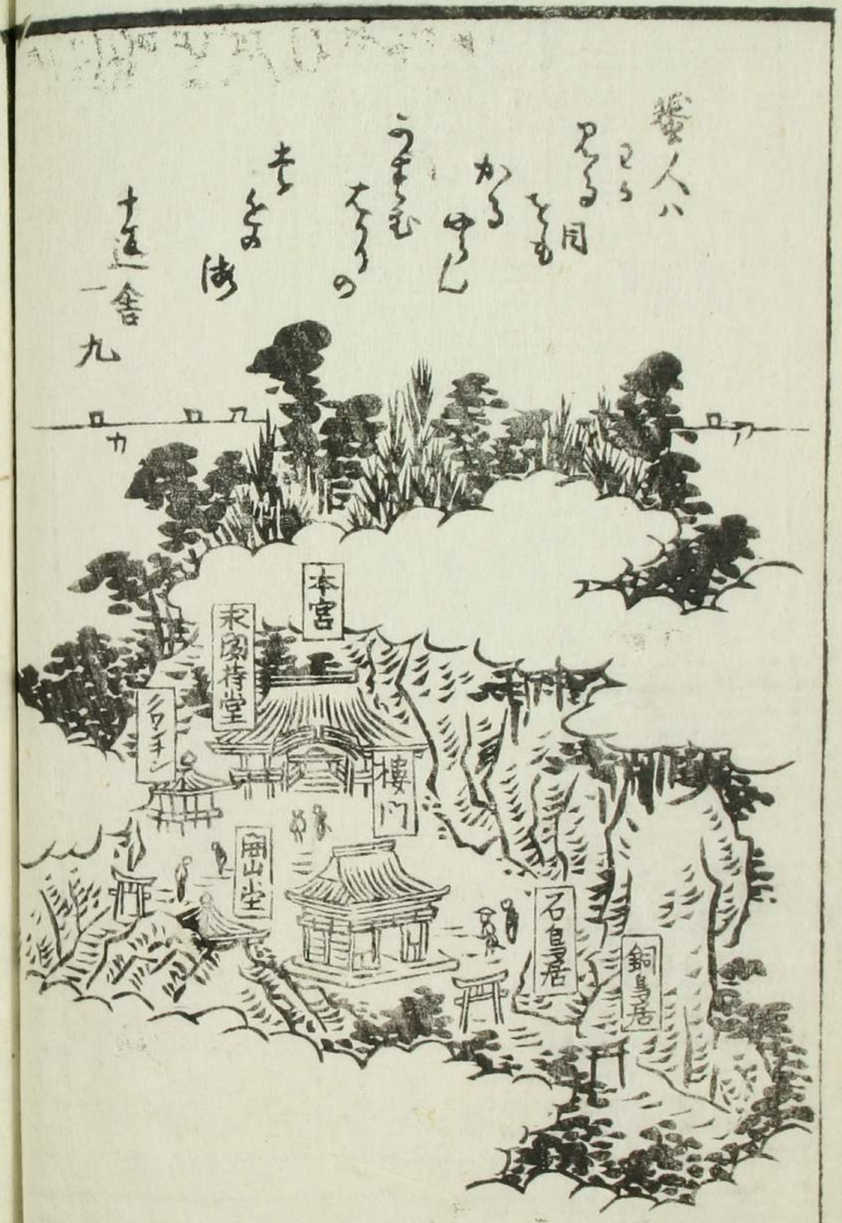
ろうさんが。おまへをアノ心とめどふあるかけてい。たくさまも。
まめくのもてなしをおくとならば。さいろいのことぞ。女ぞうでさえしい
かくぶ。おぼれてゐるぞ。さてひとんあげとがよいと。あの者を
ほめたなんるらおもいとしやせう 絵 イヤそれはありがてえ。
いってもいくらか絵 図 ろうちもめへくろ。おあいでもまろんな。 図
イエ 絵助さんでろ。サアお出なへ 絵 アイ今それへめくりやせう。
ナニト 絵 どうぞ。どうぞおいらアとのあぐさがあっても。ありがいき
さいなんとういうれるところで。たまらぬくの。ろちんるとかく。

図 おまけ。ぎ。白ひ袋をうってあらうどうえうさうめを成
ろど色男ハうるさんの足袋ぐ。きこうもちんと。あやうう。
せへなのくさどりうとさんし。ドレちまんといってこうぶやッチや
くコリやたきうぶ絵へ〜〜トうそうてんこうりかけどてゆ。絵たう
ハあとふむしやくやとあるひるうち。
よしどめあいこうぶとうりをうれば。二十四五のくみきりといろのきろいいきま
ふうううげと。十六七のうつくしいむこのあの女ども二三人いろいろおさうおう
ホの家内とうくてのの下雑をきこさどひて。さうりうさのちらかの
そうまの女があんるいあて。絵をけおづくとせうぎのたしふにをかるこ。 図
コレハあることもちぶへお出なさひまし 絵 ハイくはめんなせへ
図 コノおかるハうこにが えーいおにごそだいてんあせうこよるこ

ことゞやアござりはせぬ【隣家】ソレハてアよふれ（ごさん）系治（なをさい）なさい
まったコレおせんあるこへさ〳〵ひとろ上ケこふがゞさこへおちふ
あひまをはい。てアそなたこへさ「と」ませう【ワキ】ハイくいらゞれ
はやう、おさうなハ是（これ）よござりまを。そばかりあゞ〳〵おまを」を。
おぜうさまへト申（もうし）あくさうづきをさを。移助ハ酒がのこゝろ今よのま
せるゝくとまゝてわれども。いろこうにさゞれをまゝさね
ゆへさへ【移】モシかやうなハ下でハ。ゞの申（もう）なハ酒（ざけ）でもたゞくれまを
りのでござりはを。ぶーを猿（ぶーを）あゞ〳〵チトおあいでもいとしませう
ろ【隣家】イヤ今ふよれさ〳〵気ちりあはこふしまを。ホンニおゞんハ
ゞふ云ありこゝるひりゞ〳〵ふハないゝや【下女】らにはのうてあり
まをこし上ませうト第家（りりイ）ゞりてゞりちゞを申ふ。移助ちふハとこのり
ゞるれのこゝるゞゞんこゞゞゞゞけべんとうをこゝゞをるゞうふよしこ
りのゞとまゝてゞるふゞうこう移助のこゝへまもちきこゝふゞを【ワキ】あゞこへ
ゆ上ケこふがゞふんゞさりんりのハあゞるまゝ。モシゞめんゞさい。サア
ゞゞこもあゞりゞさいません【移助】【下女】こんゞおいゝいゝとゝと嬢（こゝ）
町ゞこゞゞれゞうゞ【下女】さゞうゞゞおゞりはを。おくゞさうは
トこゞくのゞゞりこゞうゞをゞうこゞ。移助をゞハこゞゞんてわゞゞりまこゝ
とこゝくゞゞるこゞゞゞゞゞこてゞがゞのゞゞんゞゞをゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞゞ
【ワキ】おまへこんおもとこゞゞのおこゞゞゞふ。ゞゞゞこゞゞゞゞとんゞてゞおきこふ

ぬうろうぶ。それでめのくれめぞこ紙あめるかけうふとぞんじで。
はれてまゐりまし」こぶ。ひらふじまゼ。ぜろんえんあのやうな
むさくるしん大めぞこがゐりまゝとりの紙。めれうふえんべおむと
さゐのめぞこ。なんでもどざりませぬ。ノウおくさゑ 接客 そふ
さ。ら人をこれべきりがるい。アノ人のかもをえて。アあうけんし
めうこがよん。ホンニめれうこれべ。むとどの。めぞこい 繰 ゆれ
わどのことでハないくらい。さく中よくとるがよん。ノウおたく
同 さゐりで どざりまゝ。ハイくトゆうくゆうくゆう声ゴ 狂助 の耳へとゆりこうのうらふ

ちきとこでいめくまいそんゐうこのむとゆがいむとをうべとところぶ。めぞこが
あるこうてそのふこをきらふうぶ。そこでこれがめぞこをこんうぶとして。いけんを
そるはりでゐのゆめゞ。おれをこくいゐ。ゆ。このざるこんじめてさこうぶらいろいえざ
めるあこもるいめくまいのゆうぶざこ。ゆうるゆうとしてゐるがんきうくのおりしさ。
ゆきそぶこれを立ぎとしてこうくいられぞ。ろうくとふき出きこ。ゆゆうり 狂 一、ア
かうてゆきそふとかゆこえ合せ。めんがくなげふちよぐりいうてかこうじが 狂 ちふ
こうちいうぶ。おいこゆよいとしやせう こん ちふお出なこうれう。
おにれさゐがお 待 なこうてどざるざろうかぶ。もこゆやこもも。お
きのどくゆ。ばかうてふゆさうまし 狂 ハイ大きふおせてコリや。
かふちうこはゆりまして。移つうらばちをうに 連 ませぬ。こて
ぞうくしいトちのうちふぶうくこといひるがぶ。
をこをこちいざるとゆきぶまちうけて 奴 イヨいろ男



みごとな人の 初 いくどうさぶじるめふ めんさ サァいきやせうト
ふうりんとを立いた。本宮まいり。それより山を出して。ぢごんをおり
ようりとところぶ。まこしくめとりかのもうんぼろくろふなんくもあがきうう
又 モシくちうんとうどんてゝ下さうはせ 初 だゝァいくらそ
でもらうん。酒も無南もらうせ極くらせふ。又かどれとふなんの
とんとトきうねわりしてさんくとゆ。もはん大あせをおじく
ゆうくのとふもしつき。極助がきくうでもおとうて 又 コノ
やうりめふふてん ゆんじゃァ極くうぬをんざりのを出しやァぐれ
ト女よ似ものとちうのじをきもてぢおりもも
ようぬちりとこふぶ極助らうくゆきとうり 初 コノあふめいこをう
も極くこと氏やうしやァぐる。ぬをもらくぶぬをんざくぶぐぶん

のうりぃ。コレエ。やろうぃきとうくても。ぶいきん。ぶ晶とふ
男ど。いくかとおりやァぐんて人のあぐてを。てうさふぐうに
ちゃァぐんて。ろうらで。稼敵してねァやァはきあぐんて。ぐう
ぐうとァなんのとうとつきとるとふとるとるよ。けぶえんぐちふふ
ろうつうまん　のある女ゆえ。福助がうでのちびうわど。
てえるみさど　ん　コレ。ちふ。福くすのをとうとふすのぐうねが
盗んぐふちげへう。福へぐふの女どやァ福くぐ。ちふふもむしへ
女でうそあれ。ちうと人ふはけぶうとぐふれとすのぐ。そんるとう
ぐいくのぐやァ福へ。コノやうわが　福　アイメ〜〜ユリヤ

ぐふちある　ん　ねうんぐすのを出せゆい　福　ねをあれが盗ん
ぐ　ん　ねをうって。ちいうあが。ぐでも出さねくうくト　ちうぐふ
福助がきううぐを。おすのさねうしうくれぐ。福ぐけいうとうくうられぐ　福　アコレく出をかくうまうくく
ねぐちあげ。福ぐけいうとうくうられぐ　福　アコレく出をかくうまうくく
うれとんうくトたうとうぐふがをづけあうびの　ん　ウコレこんやアぐれ
まげすのぐふうろうとうぐふぐ
ふてくあうぐト　福助をぐうとつきとるみしぐまげすの　福　ハくくイヤとやゆ
をうりかくぐふうくとうとうきゆく
げくぐんのうりい男ど　福　いちぐんも福くあんまり人を雲ふ
ちゃァがうとかぐふあのあ女あぐ買うてうせうぐあうびのかをづけ
ぐうしうふあうとぐ。ちうとうくはけうをぐうやてうくやァ

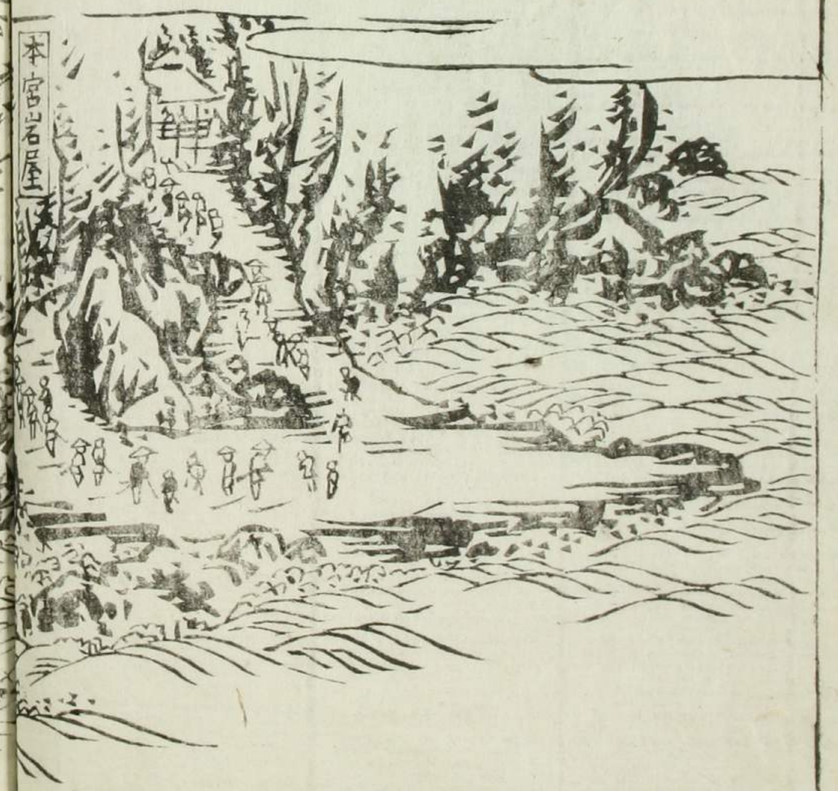
がつてうのいのくましいトうぶとうくぶつてうらいの人のえきくなるも
ふちうよのうち更ふあるうちゆくとむうふりあるとびニッニッるるふ
とをしてさげる男たぐとのみなぐぐまるるぶそれちぐひく 絵 モシ
ゆうこん仏ぐぐ火をひとうおひしなきらいませヲヤおのくその
絶えどとてとりあとうと 男きの人 コレハあとうふあるがね
ゆとかぶうぐせやーた 絵 とらうハおりうくそのあるがだれる
でもうとてくれゆとう 絵 さきの人 さゆうく。浅さ人ゆれがおれ
みとうとてまゆとコリヤア百でとのうぶねとりゆきうぶかう
とうりのぐ 絵 きあうくハイ有がうふどさらやーたト

そうれてゆきさぐぎうとゆまぐりうの窮の上ゆひげむーや
くーやとまうくうる男どもゆ二ひくまるちぐうゆく 男ども モシおうぐ
さみふ絶とりまとべいう 絵 ヲそのあるびがけいがうくうふ
あるがあるちゆぐどとふある男 とくに絶まんてあるまとひ
らぐあるまでぐぐーア 絵 ヲてきうるくちぐ蜜ぐ。おきやア
ぐれうそをけくぜ。あるとうふりのくまう白る気ーん女で。緋
ぢりゆんの禅をしてあるじゆア絶くう 男 とうひゆうじも
ないことをいうちゆ。どの潮風ふきぬれて。満へぞう
ゆりくとうありとんであるうのを。ナニ色が白うんぐらい 絵

孫とゑんざのあねちやなこと知らふ。芝居の蜜さアちが
うへ。ゑどろ子のはゝゞまどゞ。ぐくぶんのこうん男こゞ 孫 十二
あらァちゝ孫へうちよ。男のあまうりふ艶をとゝふせるゑ
もあまよゞ孫へ。女のあゑゞことさろとんぢうこうへ。滿くりぐて
こね 面をゝらしうふのゞをきゑあうあとらふだうりれとらぢ客。
〳〵〳〵サアらきやせうトそれまりやゞて 岩やゑられが 番人 サアく山役滝
ゞも十二洞へく 孫 ヨヤとくくとらるのゝ 図 とれが岩屋ゞ
あれよはんゝまるとも 番人 サアくまゆをどゞりませ。

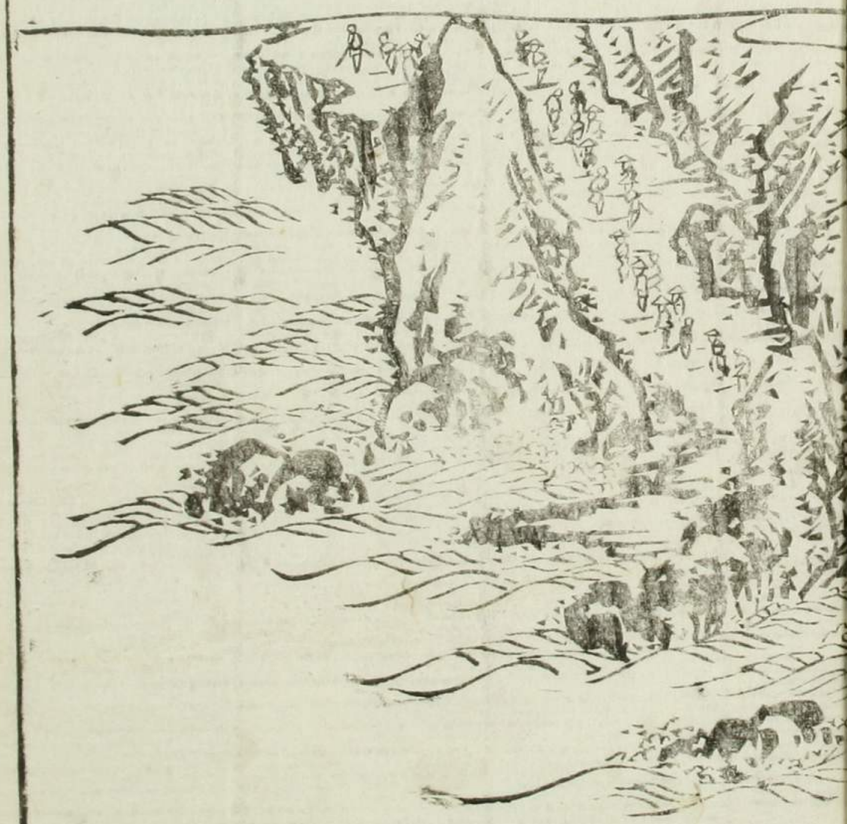
とれが日蓮上人の腰掛石。とゝまこが弘法大師化作のあゑ
犬とゑゑとれが大山の石尊大権況。十一面観世音。千手
観音。ゆゝ高輪観音。奥の院が金剛界の釈迦ゆゝまゝとこが
別格閻くゞゞ。岩屋ゆゝ東の奥ゆゝ女いとれでゞざる。冥加
滝く 孫 おいゝァくじめて耳こゞ。なうゝゞ妙みとゝろゞ。
あしどゞゆゝめうゑのうくうりときそゑできてゝらが
つうれゝ。ゆゝく出ようトとゝを出の入口。ゆとまを出ゝ入りどりやゞて。山毎
ゝゝ文殊せんとのゞきあるきしがゝゑゑ百味とうの移りりのゝそゝこゑ大ゞい
いゞれの茶屋ゑもゞりこかくしゝゆゝくやとゝんさろのゆうとうれがまゞく

美しき
お姿
なるも
年
天
の
たくの



ぬん
なる
宗の
おそ
しろ

春秋亭
仲住



さかへはちがへしと云あべに立いで。ぜんの川をこへり。かねらくんゆくみちを
うずまてらそんでばらひにたどりゆくに。とじぐへとらに酒によいくね。どくや酒のあの
とこんへ。ころのどかえほんづれ。よそへ大きなるさいと
をかうかのせゆく。あとかくぶきへくれをたゝきながら
〔つるいかの〕道楽寺の
をかぶたるあり。はやしてぞウリ。ドンゝく今そなるぞコン閻魔
に来ろあいやアリ。ドンゝく〔[illegible]〕ハヽア花の角力でもあるか
とこへくれ。財布らりて一ッぷくのんでいるふト　あたりの水茶やに来のるがあるじと
すゑ五十あまりのおやぢぜいたくでこうとして耳のつぶれたるれ。
いぜんたりふとりとこへるがのこりくとちやをくんでかゝすゐ〔幇〕モシ
とゝさん。そのだんどのはやてへの〔おやぢ〕アイきんのりの女紀
ふてぶおとる〔幇〕アゝあつくるみひやぬしがあまれふア。ぞうふぞ

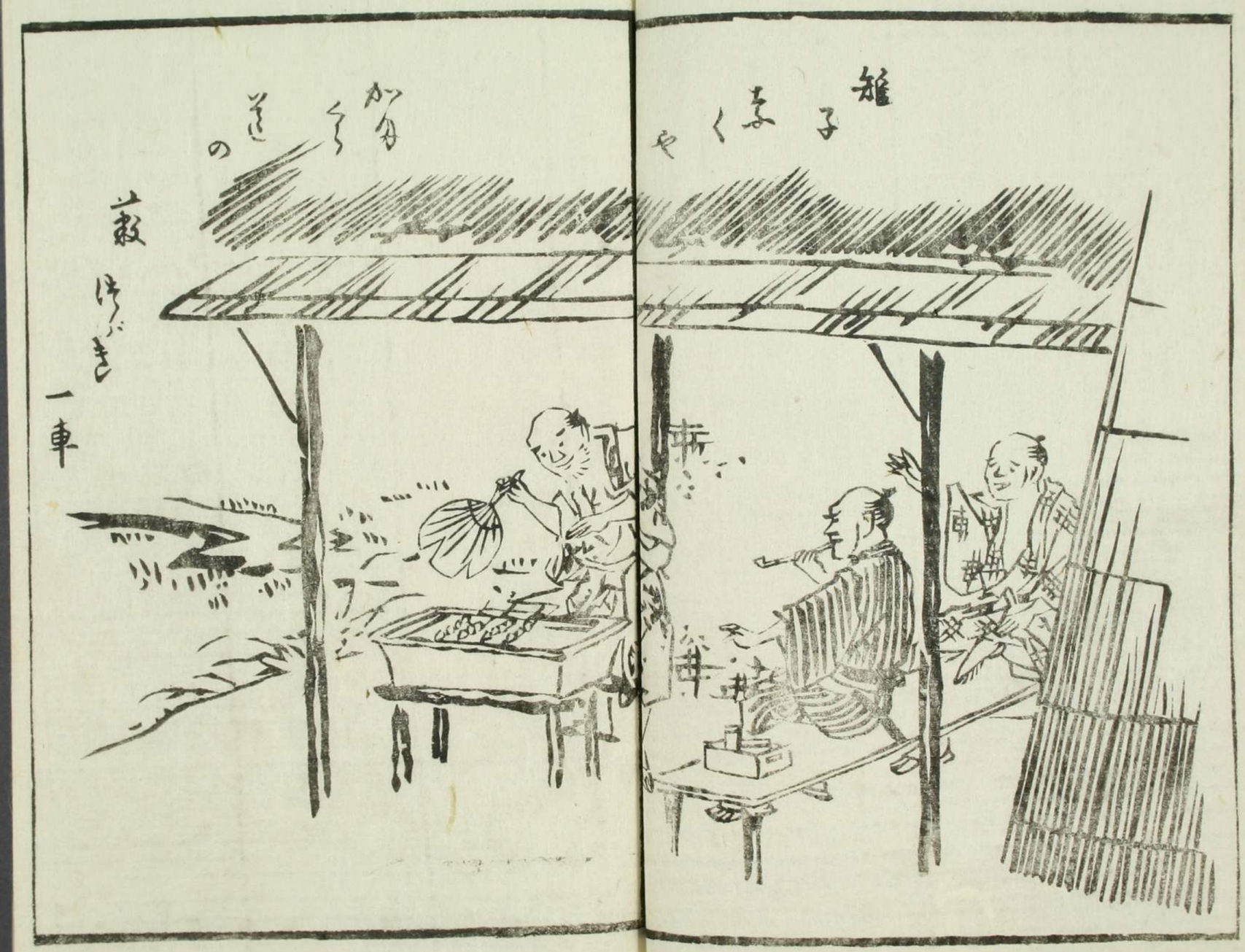
二三本あつくらめてくん行く〔おやぢ〕アイくらつとまくくり川にあまる二
トけしむなをおとしてぞんどをかけてうちてあるとり。あぞぎつて〔つるいかの〕
かるうち。とところのてらいかのきく人さりみかんぶつとこゑくるが
ヨイおやかくぞるぶさいびくあんれ〔おやぢ〕ヨゝ福七か今なんぞわ
がかくさうぶ。同志にかくぞういまてく〔ふく七〕さんぶら一ッぷく
さうらふぞんクト内へそいつとしらけてふるどとのこまぶら〔ふく七〕ナニトゑめいゑい取組
どんへいる〔おやぢ〕それよりかきんのりの瘡が浦ま骨ぐらみ
がゑつと立あうとどうちうもはぢまいせうぶよ〔幇〕ユウと川
さんごうぞに灰がくろきづくに雨をふるみせへぞしよくおめへ

そんぐ雨をあをいでなる。それでぐんどがあけるうのう（おやぢ）
アイ今ぢあけまをー　はもやぢいろうてをりふぬぐとうくぬちろうふ　そこ
でサアきろちあい。その癪が浦がちろちぢらかさんとぐ〜
ふ。ろろとこさとたりのうぐよ。さいとこもろろちあい（ちくセ）
ちりーうん。そこぐてるトこいつもをりふぐきとうくて
ろろうん。おめくどうぎふをりふがすんぐるぐ。うかれきろてその
だんとを戻ぐ〜けはしさぐそれがナニうてれるうのぐ（おやぢ）アイ
をんぐ〜和のをあのてちんぜまをぐぬぐちろ行ろ〜れど

附ふその癪が浦めぐ（孫）ぐ〜〜ろさんおりくぐんぐとぐそろこ
木とるちぐへてぴゅしをりとを木を火ぢあうけてぐふをる（おやぢ）ハテ
をりと木ぐもなんでもよくどぐ〜ふ。今ぢあけ〜〜ふ考くぜ
まをぐいふ（孫）十二をりと木がうろれるうのが。アレ孫をとう
こえをろしぐせい出ーてをりとを木ふをあうゆをかけてあるぐア。つけ
あををとをりとこえくれ（おやぢ）ソノをりと木ぬが。ぐろこくくとはけ
ちんで。肩をりしをやろふとをおろうと（ちくセ）をるわどをりと木ぬ
へづをいあろよ（孫）コリヤをりぬがをりふのをを色でだんどぐぐけく

ゆいつこ。せめて茶をひとつくん給へ。ちやぢ アイ〳〵ト ひざりのまゑ おちやぢ茶の
ちやをんを そうるぐ〳〵 そこできうしゑい。骨がくみかどりとんと。花りの
うぢよゥ。トきめて おくとゑト いひつ、右のまゑ ひしやくをもちあぐ〳〵 かさご蒲が
その手をふり おどりて。ト あつて ト ひしやくを茶碗の
するところをちよいとちら給へト ひしやくにえんぐるちやを 給へけのかゑざろぷ 給へけ
アヤ〳〵 此おやぢめ ふくちやなぜぶつけまつこ。アヤい
く ちやぢ あつく ても 熱抱さろしやい。今ぐかんどんのちゑ
うん ぶぐ 給へ ナニおのれ。人ゑ中けどをさしやゥがつて。ふそく

めぐ。トけくみつき ちやぢ ととうで。骨がくみぐ。トありてきり
きり〳〵ト 紙をけぐりでをれぐ めげ〳〵くるくく 給へ コリヤ〳〵ぐふとるく
ちやぢ ぐふとるゑんうどうしてかさぐらぶ紙土俵ぎろへよい
やさアト 紙をもりふさゑとろてるげ。給へ アイタ〳〵〳〵
ちまきゑうまくちゑ のゑゑちゑ 給へ
拵 ちのちやぢめ。ぜおぐ友ぐちをるげやァぐろと 給へ
コレハちくりひやうしにかゝりくぐいぶちるげ。かんゑ
さろしやい。めとぐゆろうとめやまるはとぐいうぷてア
はぐぎの二ぐんめの勝負ををゑをぐろへぎうろしやい 給へ


雑子くさ
かなくさの道
一歌 はがき
一車

十二まうに今度ハあれをうけよふとおもつて。そのまゝハくるま
ね。ふてくされ川で【かいせ】りのそぐるで。アゝあつたらさうしめい
【孫】いかいほしい。ちんするに足をまりもいでがつてんおれくぞと
主かつるをおやぢ孫助がてをちよつとはんぜがさとがれむかしとりふ
もとりうるおやぢなれバ。孫助いろくふうげども。じくともせずとおちつき
うくて【おやぢ】ワーが桑桐でがんかさつまおやハトつらいあまを ありふし
ワアイリく【ふく七】アリヤかみがそりふがたちあるとふそうだ。【そりあかたのうきのてん】
おやかさいきまうとるとんト おけるところへ又面のつらいりの大ぜいどやくときうり【こそめく】
サアくいくるすいくがふじく【おやぢ】コリヤぐんぐあ めん

まうてお川くハぢちがあるなん。サア出かけるぞんト ひきたつる
ぢつてこまるく出くゆく【孫】エゝどうもちくるで。さんぞめ母あくさ【かん】よかつこの
孫へアノおやぢもまゝまぐれものできあくぶのことしておるそ
いきやアかがつて。財ふとりしてもかぶれめへ。サアいうふト
そうくこゝろをふちいで。此村をうちすぎてまつさきのぞう出ると。牛ひきども二三人まちうけて【牛引】どんお雪の
下までおんくくださうん【かん】ナンダ牛ふのれが野郎
の天神さまじやアあるめへし【孫】おいらが今のぞ。おいらが
いるれさいこひのこころぞ。そなじのよ孫子うしよりのつて

足ようト変風のさうだんも出来ごのところ
より絵をけさうしるの絵りでよく 牛 モウ

牛馬 シイ〜チヨツ〜

江之島土産二編上巻畢